

会社概要

平成27年9月30日現在

商号	デリカフーズ株式会社
英文社名	DELICA FOODS CO., LTD.
設立	平成15年4月1日
創業	昭和54年10月6日
所在地	〒121-0073 東京都足立区六町四丁目12番12号
資本金	1,377,113千円
従業員数(連結)	337名(他、平均臨時雇用者数1,488名)

役員

代表取締役社長	小笠原 真清
取締役会長	館本 勲武
専務取締役	杉 和也
常務取締役	大崎 善保
社外取締役	尾崎 弘之
常勤監査役	野村 五郎
社外監査役	山口 隆
社外監査役	田中 清隆

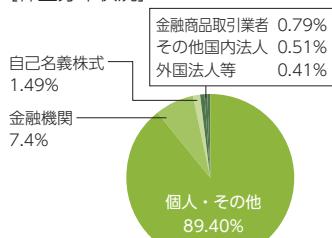
会計監査人 仰星監査法人

株式状況

平成27年9月30日現在

発行済株式総数	7,436,000株
株主総数	13,333名

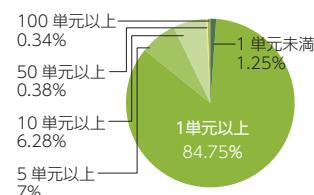
【株主分布状況】



大株主

館本 勲武	1,132,800株
館本 篤志	1,019,200株
日本トラスティ・サービス 信託銀行(株)(信託口)	172,000株
大崎 善保	125,000株
デリカフーズ(株)(自己株式)	110,502株
小笠原 真清	107,200株
岡本 高宏	100,100株
杉 和也	100,000株
野村 五郎	99,400株
デリカフーズグループ 従業員持株会	97,000株

【所有株式数別分布状況】



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL.0120-232-711 (通話無料)
上場証券取引所	株式会社東京証券取引所 (証券コード 3392)
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載 URL http://www.delica.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

【ご注意】

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機構(証券会社等)で承ることになっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



“Fresh & Speedy”

デリカフーズ株式会社

〒121-0073 東京都足立区六町四丁目12番12号



【お問い合わせ】

TEL 03(3858)1037

FAX 03(5851)1056

<http://www.delica.co.jp/>

デリカフーズ

IR最新情報はHPをご覧ください。



本事業報告書は、地球環境への負担を低減させるために、FSC®認証紙と、大豆油などをリサイクルして作られたベジタブルインクを使用しています。

UD FONT

見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



デリカフーズ株式会社
DELICA FOODS CO., LTD.

東証1部 証券コード 3392

13

第13期 中間事業報告書

平成27年4月1日▶平成27年9月30日

INVESTOR RELATIONS
DELICA REPORT
[デリカレポート]

TOP MESSAGE

株主の
皆様へ



代表取締役社長

小笠原 真清
(おがさわら ますみ)

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜りまして、厚く御礼を申し上げます。当第2四半期連結累計期間は過去最高の売上高となり、ここに中間事業報告をすることができました。これもひとえに、株主の皆様のご理解、ご支援の賜物と、重ねて御礼を申し上げます。

当社グループを含む食品関連業界におきましては、消費者の「食の安全・安心への関心」「節約志向」が続くなか、原材料・資材価格の高騰、人手不足に伴う労働コストの上昇など、厳しい経営環境が続いております。

このような状況のなか、長年取り組んでまいりました青果物の幅広い研究の成果を活かしたメニュー提案、お客様をお招きした勉強会の開催、また食品の安全確保・リスク管理体制や最新の生産設備などを高くご評価いただき、新規顧客の獲得や既存取引の深耕が計画以上に進展いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は15,544百万円(前年同四半期比11.5%増)となりました。利益面につきましては、日照不足や低温など天候不順、台風や豪雨による野菜の調達価格の高騰、品質悪化に伴う作業効率の低下やロスの発生に加え、奈良FSセンター開設に伴う人件費・消耗品費などの立ち上げ費用の発生や減価償却費の増加により、営業利益は207百万円(前年同四半期比40.7%減)、経常利益は210百万円(前年同四半期比42.8%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は130百万円(前年同四半期比44.2%減)となりました。

今後もグループ一丸となった営業活動により、さらなる企業価値向上に努めてまいりますので株主の皆様におかれましては、引き続きのご指導、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

業績の概況

第2四半期連結累計期間としての売上高は、過去最高となりました。

新規顧客の獲得や既存取引の深耕により、第2四半期連結累計期間としての売上高は過去最高額を計上いたしました。一方、長雨による日照不足や、9月に発生した台風や豪雨の影響、奈良FSセンター開設に伴う諸費用の発生等により、営業利益・経常利益および親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同四半期に比べそれぞれ減少いたしました。

当第2四半期 連結累計期間の業績

売上高 **15,544**百万円
(前年同四半期比11.5%増)

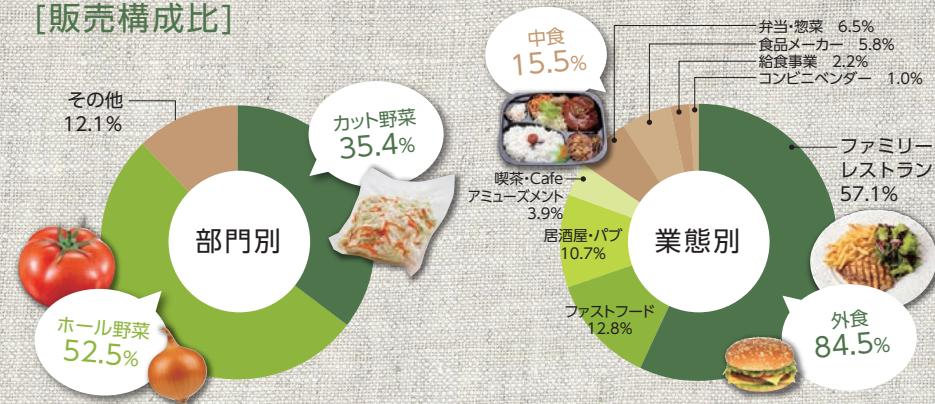
営業利益 **207**百万円
(前年同四半期比40.7%減)

経常利益 **210**百万円
(前年同四半期比42.8%減)

親会社株主に
帰属する
四半期純利益 **130**百万円
(前年同四半期比44.2%減)

1株当たり
四半期純利益 **17.77**円

[販売構成比]



カット野菜とは、開封してすぐに食べられる状態にしてあるパッケージ野菜です。ホール野菜とは、加工しない野菜そのものをいいます。カット野菜の比率が年々上昇しております。

外食・中食と大きく2つの業態に分かれており、全体の8割以上が外食産業向けの売上げとなっております。当第2四半期連結累計期間は前年同四半期と比較してファミリーレストラン向けの売上げが若干増加いたしました。

取締役のご紹介



すぎ かずや
杉 和也

デリカフーズ株式会社
専務取締役
大阪デリカフーズ株式会社
代表取締役社長



おおざき よしやす
大崎 善保

デリカフーズ株式会社
常務取締役
東京デリカフーズ株式会社
代表取締役社長
名古屋デリカフーズ株式会社
代表取締役



たちもと いさたけ
館本 勲武

デリカフーズ株式会社
取締役会長



第4回 Farm to Wellnessセミナーを開催いたしました!

- Program**
- 開会** 『機能性表示の意味すること』
デリカフーズ(株) 代表取締役社長 小笠原 真清
 - 基調講演** 『農作物の機能性表示を機会に、美味しくて高品質な野菜が高く売れる時代をつくりたい! ~外食が日本の農業を活性化する原動力になる~』
農林水産省 食料産業局 食品小売サービス課 外食産業室長 山口 靖氏
 - 特別講演** 『21世紀の医者は生産者と料理人! ~食で健康寿命を延ばす~』
日本医師連盟 小児科専門医 自見 はなこ氏
 - 特別講演** 『デザイナーフーズの25,000検体のビックデータを紐解く! ~日本で初めての装置開発が可能になった~』
京都工芸繊維大学 生体分子工学部門教授 田嶋 邦彦氏
 - 情報提供** 『単一成分のみの機能性表示では野菜の力は表せない! ~野菜の力の表示が必要~』
デザイナーフーズ(株) 取締役 市野 真理子
 - 『トマトの中身を見る化する取組み』
東京デリカフーズ(株) 武井 安由知
 - 『分析して解った日本米の優位性』
~国産米と外国産米<米国・豪州・中国>との比較~
デザイナーフーズ(株) 研究開発室長 服部 玄
 - 『デザイナーフーズの主な研究テーマの紹介』
デザイナーフーズ(株) 研究戦略室長 有井 雅幸
 - 『デリカフーズグループの事業展望』
東京デリカフーズ(株) 代表取締役社長 大崎 善保
 - 表彰** 生産者表彰 『Farm to Wellnessの紹介』
大阪デリカフーズ(株) 代表取締役社長 杉 和也

平成27年6月3日に第4回Farm to Wellnessセミナーを開催いたしました。今回のテーマは、「医・食・農・工連携が、新しい時代を創造する ~農作物の機能性表示を機会に、日本農業の再生を計ろう~」です。TPP交渉など日本の農業が大きな転換期を迎えるなか、これからの日本の農業の発展と、野菜ビジネスの可能性、そして野菜の摂取拡大による国民の健康増進についてデリカフーズと600名を超える参加者の皆様にアイデアを共有させていただきました。



セミナー会場は大盛況。お客様は興味深そうに講演に耳を傾けていました。

Farm to Wellness倶楽部より優秀な生産者の表彰を行いました。

テレビ東京系情報番組「ガイアの夜明け」でもデザイナーフーズの研究を基にした新しい野菜の販売方法が取り上げられました。



展示会を同時開催

講演会場のとなりでは展示会も開催させていただきました。デリカフーズグループでは約25,000検体の分析で得たデータを基に、野菜のチカラを効果的に表現する展示方法を提案させていただきました。その一部をご紹介します。

中身が見える野菜の提案

裏づけを視覚化する

実際の店頭で野菜の中身を表現する方法を3つご提案させていただきました。

●棒グラフ

野菜のおいしさと甘み、活性酸素消去能、ビタミンCはデリカフーズグループがもつデータベースから日本の野菜の平均を100とした場合と比較して、また硝酸イオンは少なさをポイント換算してグラフで表現。



●星の数で表現

野菜のおいしさと甘み、活性酸素消去能、ビタミンCはデリカフーズグループがもつデータベースから日本の野菜の平均を★とした場合と比較して、また硝酸イオンは少なさをポイント換算して★の数で表現。



●野菜の健康診断

野菜のおいしさと甘み、活性酸素消去能、栄養、硝酸イオンをレーダーチャートで表現。



旬のチカラ

旬のものにはチカラがある

日本には四季があり、野菜や果物には「旬」があります。デリカフーズグループでは「旬の野菜にはチカラがある」ということを約25,000検体の分析から裏づけ、野菜をわかりやすく季節別に展示し、表現いたしました。



7色のチカラ

野菜がもつ7色、この色素が第7の栄養素「フィトケミカル」と呼ばれるものです。これは、野菜自身が紫外線や害虫、外敵から身を守るために作られる成分です。「色を食べよう」は分かりやすいメッセージなのでサラダバーやカップサラダなど様々なメニューに活かせるキーワードです。



野菜の色にはわけがあります!

サラダのチカラ

おいしくてチカラのあるサラダ



機能性別にサラダやスムージーを展示

酵素のチカラ

野菜が消化を助ける



分解酵素別に野菜を分類する

FRESH & SPEEDY



平成27年4月にオープン! “大阪デリカフーズ(株) 奈良FSセンター”



奈良FSセンター所在地
〒636-0306 奈良県磯城郡田原本町西竹田 41-1

近畿エリアの生産能力増強を目的とし、平成27年4月に大阪デリカフーズ(株)奈良FSセンターが稼働いたしました。多様化するカット野菜のニーズに対応するため、カット野菜の生産設備を大幅に強化し、売上高規模は年間約20億円となっております。

START!

最新鋭のカット野菜工場です。野菜の鮮度をたもち、おいしい野菜をそのままお客さまへお届けするため日々努力しております。

大阪デリカフーズ(株)
取締役 事業所長
楠 英己

入荷 (5℃)



収穫された野菜が次々と運ばれてきます。野菜の鮮度をたもつため室温は5℃に設定されています。ここからお客様の冷蔵庫にお届けするまで常に5℃帯が維持されます。その仕組みを“スーパーコールドチェーン”と呼んでいます。

検品



ここでは24時間受発注システムで受けたオーダーにしたがい、ホール野菜とカット野菜の原料に仕分けしていきます。また、届いた野菜の品質チェックもここでしっかりと行います。

製造エリア

野菜をカット



工場内に入った野菜は、まず食べられない部分を取り除かれます。そしてその後、**お客様のご注文に合わせ野菜をカット**していきます。手でカットする方法と機械でカットする方法があり、どちらもスピーディーに行われます。

野菜を洗う



カットされた野菜は、機械の水流により丁寧に洗浄した後、ゴミや虫などの混入物をチェックします。葉物は特に気を遣い、**人の目で確認**していきます。

野菜を詰める



機械を使って洗った野菜の水気をとり、最終工程の計量作業に入ります。袋につめた**野菜は鮮度を保つため空気を抜きながら袋にパッケージ**していきます。1種類の野菜だけの場合や、複数の野菜をミックスする場合があります。



衛生品質トレーナー制度

食の安全・安心を守るために品質管理を専門に行う社員が工場内を見回っています。

出荷センター

ピッキング (店舗ごとの仕分け)



奈良FSセンターでは「進捗管理システム」を導入。正確かつスピーディーな作業が行われています。

カットされないまま出荷されるホール野菜と工場で製造されたカット野菜は出荷センターで各店舗ごとに仕分けられます。この仕分け作業の際に活躍するのが「デジタルピッキングシステム」。受発注システムと連動し、必要な野菜の種類・個数を表示。素早く正確な作業が可能です。

出荷



こうして出来上がったデリカフーズの商品は、冷蔵車でお客様のもとへと運ばれていきます。**デリカフーズの野菜を食べて笑顔に、そしてより健康になっていただく**ことが私達の使命です。

GOAL!

デリカフーズの R&D

当社グループの実績や積み重ねた分析の成果等が高く評価され、農林水産省の研究開発ならびに実証事業に採択されました。

01

先端モデル農業の確立 および日本農業全体への普及を図る

まず、「農業界・経済界の連携による先端モデル農業確立実証事業」があります。産業界・経済界の先端技術やノウハウを農業界にも導入していくことにより、担い手の生産コストを削減し、青果物の安定生産や、機能的食品表示制度に適した青果物の生産体制などの構築を目的としています。なお現在は5社が参画し、デザイナーフーズ(株)が青果物の分析を担当しております。



02

国産野菜の加工・業務用生産・流通を拡大

加工・業務用では国産野菜のニーズが高い一方で、産地は十分に対応できていないのが現状です。そこで、「国産原材料供給力強化支援事業」では、安定的なサプライチェーンの構築を支援し、より加工・業務用に適した野菜を生産する方法(土作り、栽培技術など)を検証することで、加工・流通を拡大していくことを目的としております。



※協議会事務局を東京デリカフーズ(株)や名古屋デリカフーズ(株)が担当。

NEWS & TOPICS

当社の主な出来事やグループの取り組みをご紹介します。

デリカフーズ株式会社
広報IR室



「日経IR・投資フェア2015」に出展し、個人投資家に向けて会社をPR



平成27年8月28日・29日、東京ビッグサイトにて行われた個人投資家向けイベントに出展いたしました。ブース内では事業内容や研究成果の発表、ミニトマトの試食などを実施。多くの投資家の方々に立ち寄っていただき、盛況のうちに終了いたしました。

東京デリカフーズ株式会社
西東京FSセンター

東京都昭島市の新工場開設に係る設備・機械など固定資産を取得



完成予想図

中期経営計画における国内エリア拡大を実現するため、東京デリカフーズ(株)は東京都昭島市に新工場を開設いたします。最新鋭のFSセンターとなり、これまでニーズに対応しきれなかった西東京エリアでの受注拡大や、新規商品の開発を目指してまいります。なお完成は平成28年春を予定しております。



株主優待制度の一部変更に関するお知らせ

株主優待がさらに拡充します!

こだわり野菜・果物の詰合せ、またはジェフグルメカードのどちらかを選択できるようにいたしました。また、3年以上継続して1,000株以上保有の株主様には、高級米「命仁」2kgを贈呈いたします。

保有株式数	優待内容
100株以上500株未満	1,500円相当のこだわり野菜の詰合せ または ジェフグルメカード 1,500円分
500株以上1,000株未満	3,000円相当のこだわり野菜・果物の詰合せ または ジェフグルメカード 3,000円分
1,000株以上	6,000円相当のこだわり野菜・果物の詰合せ または ジェフグルメカード 6,000円分



四半期連結貸借対照表 (要旨)

単位：千円

科目	第12期 前連結会計年度末 (平成27年3月31日)	第13期 当第2四半期連結累計期間 (平成27年9月30日)
■資産の部		
流動資産	9,257,290	7,794,015
固定資産	7,421,342	8,070,603
資産合計	16,678,633	15,864,619
■負債の部		
流動負債	4,572,506	4,137,255
固定負債	5,547,228	5,153,834
負債合計	10,119,734	9,291,090
■純資産の部		
株主資本	6,493,657	6,499,310
その他の包括利益累計額	61,013	70,262
新株予約権	4,228	3,956
純資産合計	6,558,898	6,573,529
負債純資産合計	16,678,633	15,864,619



四半期連結損益計算書 (要旨)

単位：千円

科目	第12期 前第2四半期連結累計期間 自平成26年4月1日 至平成26年9月30日	第13期 当第2四半期連結累計期間 自平成27年4月1日 至平成27年9月30日
売上高 1	13,937,168	15,544,116
売上原価	10,457,656	11,911,214
売上総利益	3,479,512	3,632,901
販売費及び一般管理費	3,128,809	3,424,909
営業利益	350,703	207,991
営業外収益	46,662	31,364
営業外費用	28,620	28,429
経常利益 2	368,744	210,927
特別利益	17,148	2,166
特別損失	3,657	6,462
税金等調整前四半期純利益	382,235	206,631
法人税、住民税及び事業税	148,777	76,444
親会社株主に帰属する 四半期純利益	233,458	130,187



四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

単位：千円

科目	第12期 前第2四半期連結累計期間 自平成26年4月1日 至平成26年9月30日	第13期 当第2四半期連結累計期間 自平成27年4月1日 至平成27年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	626,720	7,631
投資活動によるキャッシュ・フロー	△420,860	△999,107
財務活動によるキャッシュ・フロー	△37,636	△704,613
現金及び現金同等物に係る換算差額	159	—
現金及び現金同等物の増減額△は減少	168,382	△1,696,089
現金及び現金同等物の期首残高	2,554,795	5,376,962
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,723,177	3,680,873

	第12期 前第2四半期連結累計期間 自平成26年4月1日 至平成26年9月30日	第13期 当第2四半期連結累計期間 自平成27年4月1日 至平成27年9月30日
1株当たり四半期純利益(円)	38.74	17.77
1株当たり純資産額(円)	831.79	896.81
自己資本(百万円)	5,022	6,569
自己資本比率(%)	36.6	41.4

決算数値のポイント



1 売上高
売上高は順調に拡大し、通期業績予想に対して進捗率は約52.5%と計画以上に推移いたしました。

2 経常利益
天候不順による野菜品質の悪化や、奈良FSセンター開設に伴う立ち上げ費用の発生等が主な減益要因となっております。

産地レポート vol.5

デリカフーズに野菜を納入していただいている生産者のみなさんをご紹介します。
JAひがしみの加子母トマト生産組合 [岐阜県]

JAひがしみの加子母トマト生産組合
岐阜県中津川市



組合執行部のみなさん

岐阜県の夏秋トマトは、標高300m以上の中山間地で栽培され、県を代表する野菜として、JAにより6～10月まで市場に出荷されています。歴史は古く、昭和30年に露地栽培を開始。昭和38年には名古屋市場への出荷が始まり、これを機に各地で生産組合が誕生しました。加子母トマト生産組合は34名の生産者を擁し、栽培技術の向上を図っています。



JAひがしみの 原英二氏



味・品種・栽培方法の「こだわり」を打ち出し、おいしいトマトを生産しています。

加子母トマト生産組合では、「雨除けハウス」と呼ばれる天井のみの簡易なビニールハウスを使用し、長期にわたる樹勢の維持や調節、病害虫の軽減・日焼け防止などにつとめています。冷涼かつ昼夜の温度差のある気候と相まって、色・味ともに優れ、市場から高評価を得るようになりました。一方、化学合成農薬の散布を減らした「ぎふグリーン農業」を実践。さらにGAPと呼ばれる農業生産工程管理を導入し、より安心・安全な栽培を行っています。

近年では、理学博士である中嶋常允氏の指導による「中嶋農法」に取り組み、ブランド力を強化し、味・品種・栽培方法にこだわり、ファンを増やし続けています。

デザイナーフーズ 服部の産地の逸品紹介【トマト】

「中嶋農法」では健全な土壌作りとして、土の健康診断を基にミネラルバランスを考えて栽培を行います。加子母トマト生産組合で生産されたトマトは、DPPH法による検証の結果、活性酸素消去能の値は、関東・東海・九州からなる他の8産地の活性酸素消去能の平均値と比較して約1.3倍高い値となっております。

